



2019年8月1日放送

印象に残る症例①

人知れず悩む母親に漢方薬を処方したことで、
子どもの諸症状が消失した症例

富士宮市立病院 小児科 榎並 彩子

私は、小児科医として日々子どもたちと向き合っております。子どもと向き合うことは、子どもの家族、特に母親と向き合うことでもあります。

今回は、母親が健やかになったことで、子どもも健康な状態へと戻っていった症例を紹介します。

主人公は現在9歳の男児、3人兄弟の長男です。

私が彼に初めてお会いした時、彼は6歳でした。数年来の鼻炎と皮膚のかゆみがあり、近くの病院から抗アレルギー薬やステロイド軟膏が処方されていました。しかし、特に鼻炎症状がなかなか改善せず、鼻水や鼻詰まりのため夜になんども目覚めてしまう状態でした。また、日中の疲労感が強いことも心配し、来院されました。

外来受診時も鼻声で、顔色がやや悪く、覇気がなく疲れている様子でした。この時点では鼻水や鼻詰まりで睡眠の質が落ちていることが、一番の問題点と判断しました。鼻水、鼻詰まりが改善し、よく眠れるようになれば、疲労も改善して覇気が出てくるのでは、と考えたのです。早速、鼻水・鼻づまりに対する漢方治療を開始しました。

その後、6歳から7歳にかけて、3種類ほどの漢方薬をその時々状態に合わせて試してもらいました。どの処方も症状は改善するのですが、どうしてもゼロにはなりません。結局、生理食塩水を用いた鼻うがい本人が一番すっきりするようでした。それで、鼻うがいをメインに行いながら時々漢方薬を併用する、という形に落ち着きました。

経過中に眠りの質はだいぶ良くなりましたが、まだ時折疲労感が見られました。しかし日常生活に影響のない程度でしたから、そのまま経過を見ていました。

ところが 8 歳の夏に風邪をひいて体調を崩してから、それ以後下痢が続き、疲れやすくなり、食欲も不安定になりました。同時に車に酔いやすくなり、再び鼻炎症状が増悪してしまっただけです。風邪の症状は治ったのに、下痢や疲れやすさが続き、そのほかの不調が続いてしまうことに対しては、お母様とご本人は「習い事と宿題が忙しい。ゆっくりできないので回復が悪いのだと思う」とお話しされていました。

この時点で、下痢が続くというお腹の症状があること、食欲が不安定であること、細身で腹力がやや弱く腹直筋の緊張が強いこと、少しお腹を触っただけで、強くくすぐったがる様子があることなどから小建中湯を開始しました。

すると、開始後速やかに下痢がなくなり、食欲が戻り、車酔いと疲労感がなくなり活気が戻りました。そして、増悪していた鼻炎症状も改善しましたが、こちらに関してはまだ、すっきりするために鼻うがいを引き続き必要な状態でした。

小建中湯を 3 ヶ月ほど続けて、良い状態が維持できていたので、その後だんだんと減らしていきました。しかし小建中湯の内服を完全に終了すると、再び、食欲が不安定になり、度々下痢をするようになり、疲労感を訴え、鼻炎症状が増悪してしまうのです。ずっと内服を継続せざるを得ない状態でした。小建中湯は一時的に体を整えることができて、根本的な問題は改善していないようでした。

そこで、より根本的な問題は何か考え直した方が良いのではないかと、立ち止まって今までを振り返ってみることにしました。

いつも外来には、お母様と来てくれます。診察中も、彼はニコニコしながら自分の様子を教えてください。たとえ疲労感があるときでも、目は輝いていて、心を開いて私に話してくれていることが、よくわかります。診察が一通り終わり、最後に、「他に何か心配なことはありますか?」とお聞きすると、毎回、お母様から子育ての悩みや近所づきあいの悩み、子どもの健康の不安などのご相談があります。

思い返してみたら、お母様が悩みを相談し始めると、彼の表情が硬くなり、下を向きながらじっと耳を傾けて、お母様の話を聴いている様子を見せていました。その時に悲しそうな目つきに変わり、目の輝きが失われることを思い出しました。

ここで一般的なこととお話しますが、どんな子どもも、元々はお母さんが大好きで、とってお母さん想いです。小さい子ども達がお母さんを見る眼差しは、感動するほど愛情に溢れています。自分の存在そのものがお母さんの喜びであることを感じる時、子ども達は本当に嬉しそうです。

とくに、小建中湯の証の子は心理面での母との結びつきがとても強いように思われます。それは、診察室での 2 人の座り方にも現れます。診察室には親子用に 2 つの椅子が置いてありますが、小建中湯の証の子とその母親は、椅子を自分たちで動かして、近づけて座るこ

とが多いです。そして、経過や症状について話すときは、母子で何度も確認するように視線を合わせ、母子で同時にまたは交互に話すことが多いです。小建中湯の証の子は、素直で自己主張がそれほど強くなく、母の感情に敏感に反応します。母の心の動きに同調して一緒に心配になったり不安になったりする様子が多くみられます。

今回の男児も、お腹に関連した症状があり、細身の体格や腹直筋の緊張の程度、お腹のくすぐったがり方はまさに小建中湯の証であり、実際小建中湯がよく効いていた経緯があります。お母様がお話しされる時の彼の表情をみてもお母様との結びつきが強く、同調が強いことがわかります。

お母様の悩みと彼の不調は、関連があるのかもしれませんが。そこで後日お母様だけ来院していただく日を設けました。

お話をお聞きすると、実は、お母様は潰瘍性大腸炎に罹患しており、ご自身の健康に強い不安を抱えていらっしゃるということがわかりました。また夫は仕事が忙しくほとんど家にいない。ご自身の母親はすでに亡くなっており、子育ての不安を相談できる相手がいませんでした。さらに、ご近所づきあいが非常に大変で、近所でママ友に会うのも怖くなってしまい、1日中胸がドキドキして、寝つきも悪く、眠りも浅い状態でした。

自分の子ども達のことを心から大切に思っていました。なぜか子ども達を信じることができず、もしかしたら、とても悪い子たちなのかもしれない、という考えが頭から離れない状態でした。涙を流しながら事細かに具体的なエピソードをお話ししてくださる様子、毎日夕食の支度をするとき、喉のつまりを感じる、という訴えから半夏厚朴湯を処方しました。

2週間後の外来フォローの際、お母様は髪の毛に綺麗なパーマをかけて、微笑みを浮かべながら外来にいらっしゃいました。見るからに柔らかい雰囲気になりました。そしてご自身の変化について、顔を輝かせて、次のようなことを、お話して下さいました。

半夏厚朴湯を1回内服した時点ですでに効果を感じた。不安に思っていた潰瘍性大腸炎に対して、健康について大切な気づきを与えてくれるものだ感謝できるようになった。仕事が忙しく家にいない夫に対して、今までは不満が溜まっていたが、優しい言葉をかけられるようになった。ママ友との付き合いがストレスで、1日中胸がドキドキして、寝つきが悪く眠りが浅かったのに、ドキドキは全くなり、18時頃には眠くなり、20時半には子ども達と一緒にすんなり眠れるようになった。ふわっと体が軽くなったような感じがする。気持ちいい感覚で体も温かい。元気になったので、家の片付けができて、部屋が綺麗になった。子ども達と穏やかに一緒にいる時間を楽しめる。子どもといるとき幸せだと思える。

そうお話しして下さったのです。それは感動的な変化でした。

そして、とても嬉しいことに、お母様が「自分は変わった。もう大丈夫。」と思ったのと

同時に、彼の鼻炎は改善し鼻うがいが必要なくなりました。小建中湯を内服しなくても食欲が安定し、下痢になることもなくなりました。疲労感はなくなり、活気溢れる元気な子になり、自ら毎朝長距離ランニングをするようになりました。

今現在、お母様はしみじみと、「長男の健康は、私と完全にリンクしていたことに気づきました。長男は優しさを私にたくさんくれます。それに気づきました。子ども達と過ごせる日々、本当に幸せです。」と話していらっしゃいます。

お母さんの健康と幸せは、そのまま子どもの健康と幸せにつながることを実感した症例でした。